
令和元年 第95回（定例）新 温 泉 町 議 会 会 議 録（第3日）

令和元年9月5日（木曜日）

議事日程（第3号）

令和元年9月5日 午前9時開議

- 日程第1 諸報告
- 日程第2 一般質問
- 日程第3 議案第81号 令和元年度新温泉町一般会計補正予算（第2号）について
- 日程第4 議案第82号 令和元年度新温泉町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第5 議案第83号 令和元年度新温泉町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第6 議案第84号 令和元年度新温泉町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第7 議案第85号 令和元年度新温泉町浜坂地区残土処分場事業特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第8 議案第86号 令和元年度新温泉町温泉地区残土処分場事業特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第9 議案第87号 令和元年度新温泉町七釜温泉配湯事業特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第10 議案第88号 令和元年度新温泉町水道事業会計補正予算（第2号）について
- 日程第11 議案第89号 令和元年度新温泉町公立浜坂病院事業会計補正予算（第2号）について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 諸報告
- 日程第2 一般質問
- （10）10番 宮本 泰男君
- （2）2番 太田 昭宏君

出席議員（16名）

- | | |
|------------|------------|
| 1番 池田 宜 広君 | 2番 太田 昭 宏君 |
| 3番 岩本 修 作君 | 4番 阪本 晴 良君 |
| 5番 森田 善 幸君 | 6番 中井 次 郎君 |
| 7番 重本 静 男君 | 8番 小林 俊 之君 |

9番 谷 口 功君	10番 宮 本 泰 男君
11番 河 越 忠 志君	12番 浜 田 直 子君
13番 平 澤 剛 太君	14番 竹 内 敬一郎君
15番 中 村 茂君	16番 中 井 勝君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	仲 村 祐 子君	書記	東 康次郎君
----	----------	----	--------

説明のため出席した者の職氏名

町長	西 村 銀 三君	副町長	田 中 孝 幸君
教育長	西 村 松 代君	温泉総合支所長	太 田 信 明君
牧場公園園長	藤 本 喜 龍君	総務課長	井 上 弘君
企画課長	岩 垣 廣 一君	税務課長	長谷阪 仁 志君
町民安全課長	西 村 徹君	健康福祉課長	中 田 剛 志君
商工観光課長	水 田 賢 治君	農林水産課長	松 岡 清 和君
建設課長	山 本 輝 之君	上下水道課長	北 村 誠君
町参事	土 江 克 彦君	浜坂病院事務長	吉 野 松 樹君
介護老人保健施設ささゆり事務長	宇 野 喜代美君	会計管理者	仲 村 秀 幸君
こども教育課長	長谷阪 治君	生涯教育課長	川 夏 晴 夫君
調整担当	谷 渕 朝 子君	代表監査委員	川 崎 雅 洋君

午前9時00分開議

○議長（中井 勝君） 皆さん、おはようございます。

第95回新温泉町議会定例会3日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御多用のところ御参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、2日目に引き続き一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては格別の御精励を賜り、議事の円滑な運営に御協力を賜りますようお願いいたします。

町長、挨拶。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 皆さん、おはようございます。

定例会3日目の開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は、昨日に引き続きまして2名の方より一般質問をいただいております。いずれも行政運営に係る重要な案件であり、誠意を持って答弁させていただきます。

また、休憩中には補正予算の説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

- 議長（中井 勝君） ただいまの出席議員は16名で定足数に達しておりますので、第95回新温泉町議会定例会3日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第1 諸報告

- 議長（中井 勝君） 日程第1、諸報告に入ります。

議会広報調査特別委員会が9月4日に開かれておりますので、委員長からその報告をお願いいたします。

13番、平澤剛太君。

- 議会広報調査特別委員会委員長（平澤 剛太君） 議会広報調査特別委員会について御報告いたします。

昨日、9月4日本会議の閉会後に委員会を開催し、10月24日木曜日に発行予定の議会だより第56号の編集方針について協議いたしました。

今回は28ページ立てで予定しております。原稿依頼は9月20日の予定です。締め切りは10月1日火曜日といたします。よろしくお願いいたします。

一般質問の記事については、お配りしている原稿データを御利用ください。各ページ、写真を1点掲載いたしますので、写真データをお持ちの方は原稿と一緒に提出をお願いいたします。写真データない方につきましては、委員会にて準備いたしますので、原稿に希望する内容、テーマを記載してください。その際、写真のコメントについては記事内容を補完する意味もありますので、必ず添えていただきたいと思います。

以上、報告といたします。

- 議長（中井 勝君） 平澤委員長、ありがとうございました。

日程第2 一般質問

- 議長（中井 勝君） 日程第2、一般質問に入ります。

きのうに引き続き、受け付け順に質問を許可いたします。

初めに、10番、宮本泰男君の質問を許可いたします。

10番、宮本泰男君。

- 議員（10番 宮本 泰男君） 10番、宮本泰男です。

本日、3日目の一般質問ということでさせていただきますが、町長、お疲れでしょうが、よろしくお願いいたします。

一般質問に先立ちまして、前回6月の定例会で、私、国道178号線で、通称、芦屋

坂の、浜坂から芦屋坂を通過して諸寄へ行く区間の、浜坂側の頂上になりますが、そこから浜坂側に坂道、下り坂になりますけれど、そこから左側に街路樹が成木し過ぎて、通行の邪魔するとか、ロケーションが悪いと。その伐採をお願いして、新しくソメイヨシノとか、しだれ桜、小さくても花がぱっと咲く、にぎやかな桜にしてほしいという要望をいたしまして、7月ごろから工事にかかっていたしまして、現在、ちょうど海が見えて、浜坂町内が一望できるロケーションが復活しまして、大変、私は感動しておりますし、町長、建設課の担当者の進言があったからこそ、このように早くできたのかなと私自身思っております。今後、そういう早く行政施策を対応していただくようお願いいたします。

私の今回一般質問は、居組地区の活性化についてと、漁業振興についての2件でございます。同僚から言われとるんですが、膨大な通告資料だということですので、その中で重点的なことだけを議論してまいりたいと思いますので、お疲れでしょうが、よろしく御答弁のほどお願いします。

まず、居組地区の地域活性化についてですが、居組地区を海洋公園にする、海洋王国にすることによって、居組地域の地域活性化を図ったらどうかという提案をいたします。

理由は、背景としましたら、ただいま高規格道路、浜坂道路Ⅱ期工事が着工され、居組地区にフルインターチェンジが設置されると聞いております。そのことによって、交通量の増加、交流人口の増加、観光客増加等、地域の経済活性化が期待できる大事業でございます。

御承知のとおり、居組海岸は風光明媚、ジオパーク地区で、漁業、水産加工業、海水浴場、海の民宿等も盛んで、観光客も多く、にぎわいのある町でした。現在は、御多分に漏れず、過疎化が進み、少子高齢化の典型的な地域になっております。そこで、居組地区の活性化を、この高齢化や過疎化を食いとめるために、このようなジオパーク海洋公園事業を創設し、地域経済活性化に取り組むことを提言いたします。

まず、工事の内容について、工事区間とか、フルインターチェンジがどのようなものか、町長の知っとる範囲で御説明をお願いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜坂道路Ⅱ期工事がスタートいたしております。当初、7年間ということで、ことしが2年目になります。1年目は調査費ということで約4,000万円、それからことしは8億4,000万円、いよいよ買収に入っているというのが現状であります。

工事の予定として、年内に起工式を予定をいたしております。土木の予定として、まず、居組インター、ここが一番最大の、工事としては時間とか、いろんな工法とか、一番大事なところだということで、この居組インターからスタートしたいと、そのように申しております。完成は、約6年後ということになります。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） よくわかりました。

次に、この目的をちょっと申し上げておきますと、なぜこういう海洋公園にするかという目的なんですが、まず、人口増加を図ることと、地域の活性化を図る。この2点に絞りまして、対策としては、人口減少対策、で、産業振興対策、生活環境対策の3本柱でやっていき、具体的事業は、ジオパーク海洋公園事業を創設するというような論点で、今回、質疑したいと思っております。個別に質疑したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、居組の過疎化対策は現在どのようにされてるんでしょうかね。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 居組の過疎化対策として、これ、居組ばかりでなしに、全集落に言えることであります。町全体として、どういう過疎化対策をするか、これはひとえに高齢者の対策、それから一番大事な子育て環境をどう充実するか、ここにかかっておると思います。居組もそうですし、八田エリア、それから熊谷エリアも、居組以上に人口減少、過疎化が進んでいるということで、共通課題になっております。町全体として、どういう過疎化対策をできるか、ここは国もそうなんですけど、非常に重要な課題だと思っておりますので、そういったところを重点的に施策として、打ち出していきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） じゃあ、居組地区で特定の対策、事業なりということですね。

では、これから、私、海洋公園、王国にするために、具体的な事業を質疑したいと思います。

まず、ジオ関連事業としまして、水族館、温泉施設。水族館は大きいようなものを想定されると思うんですけど、鳥取の賀露地区にあるかにかこ館というような水族館でございまして、小規模でも特定化した、カニを中心にしたような水族館でありまして、皆さん、マスコミで騒がれとる200万円の松葉ガニが生きのまま展示されとる。すごく好評で、観覧客も多いかったと。そういうような特定化した、小型というんですか、地域に合った水族館。居組地区にはそういう沿岸と沖合、そういうところでとれる魚介類ですね。松葉ガニだったり、ハタハタだとか、ホタルイカであったり、沿岸ではアワビ、サザエ、貝類が多いです。そういうもんを展示してもらって、材料は安価で手に入って提供できますんで、そういうことから始められたらいいかと思えます。

次に、温泉施設ですが、これは後から述べますが、それについて、水族館についてどう思われますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） かつて、ジオパーク館の跡が、マリナーポーチっていいですか、水族館のような運営をしておりました。非常に入館が厳しいということで、いろんな試

行錯誤の中でジオパーク館に変わっております。

居組地区、現在、居組のインターで車が通っておるわけですけど、高規格道路ができると、やはりストロー現象、交通量は激減すると思われます。一方で、穴見海岸からの夕日、日本海夕日ラインって言ってますけど、大変すばらしい景色もあります。そういった意味で、車が減り、観光客が減り、すると、やはり居組の過疎化に拍車がかかる可能性は非常に高いと思っております。余部地区では5億円かけてエレベーターをつかって、何とか道の駅もできて、維持をしているようであります。そういった形ができればいいなと思っておりますし、県とも相談しながら、穴見海岸のビューポイントとして公園化、そういったものを今検討中であります。この海中公園というのは現状ではなかなか厳しいかな、それは過去のマリナーの現状を見ても言えることですので、そこはちょっと難しいかな、そんなふう考えております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 私は水族館だけのことをお聞きしたと思ったんですけど、次の海岸、海中、海底公園のことについてまで述べられております。

まず、水族館で、町長はマリナーの、今のジオパーク館の跡地にマリナーをつかったというのありましたんですが、それは逆でして、マリナーが先につくられておって、その当時は、メインは3Dのスクリーンで海中を映像したり、当時はリュウグウノツカイとかいって、珍しい海の生物を映像で見ると。当時、全国的に、3Dっていうのはほとんどなかった、それを何百万円もかけて持ってこられた。それもメインの施設ですけど、漁業組合がタッチプールという施設をこしらえまして、それで、地元で揚がる魚で、砂をひいて、そこをプールにして、魚を泳がして、お子さんたちにさわらしたり自由にさせた。その上に、こういうアーケードみたいなんつくって、今でいうトンネル式の水族館、よく鳥羽の水族館に行ったら、通り抜けの、天井が全部プールになると、そこを通り抜けるような、大プールになるとるんですけど、それのもとの規模のやつをそこに設置されて、大変好評でした。それは、但馬の祭典でしたんで、副町長御存じだと思いますけど、但馬の祭典のメイン事業として浜坂町はそれをこしらえました。大変な好評で、盛大に運営されておりました。しかしながら、そのときは県の後押しがあったもんで、交流人口、大変な、当時のテーマは何だったか忘れちゃったけど、そういう交流人口をふやすというようなテーマの1つだったと思うんですけど、各町にそういうメイン施設をつかって、夢ホールもその1つか、香住では海の文化館というのを作りまして、当時の竹野町では北前館を作りまして、これ、前から言いますように、北前船の、千石船の5分の1ぐらいの模型船を、町民がつくって寄附したそうなんですけど、その北前館の資料館、展示館、温泉施設、宿泊施設も大きくつくって運営されておりました。いろいろと豊岡市は、出石のほうにもひぼこホールとか、文化ホールとか大ホールとかの大事業をされて、そのときはマリナーは大活躍しておりましたんで、失敗じゃありません。ですから、時代が変わりましたので、今は水族館の時代だと

いうことを認識をしていただきたいと思いますが、どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 構想っていいですか、考え方は異論はありません。ただ、実行できるかどうかは、いろんな課題が山積してると。財源も含めて、そう考えております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 私は海洋公園、王国なら、最大の目玉の設備だと思いますので、前向きに、実現可能な考えでやってください。

次に、海岸、海中、海底公園施設ということですが、これは新温泉町の海岸線は国立公園に指定されております。そのときに、海中公園もあります。居組と諸寄、また田井ノ浜ですか、向こうのほうにもありますから、何ポイントかありますので、そこは現在、見えない、行けない、知られてない、このないないないづくしになっておりますので、これが見えるように、行けるように、知られるようにということを、全てだと思しますので、特に居組地区に関しては早急にしてください。どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 宮本議員、再度、質問をお願いをいたします。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。最後の語尾が下向いてしゃべるから聞き取りにくいと思うので。

○議員（10番 宮本 泰男君） ああ、ごめんなさい。要は、国立公園に認定されとるポイントがたくさんあるんです。そこが知られてない、行かれてない、見えない、行きにくい、見えないというふうにならっておりますので、行けるような、見えるような、知られるのは情報発信でいいと思うんですけど、居組地区は早急にしてほしいということです。わかりましたか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ちょっとわかりません。国立公園のポイントがある、そこに行けるようにしてほしい。そのポイントというのは、山陰海岸全体が国立公園だと思うんですけど、その辺のところはいま一つちょっと理解がつかいません。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 理解の仕方ですか。それは、商工観光課とまたよく勉強してください。

次に行きます。水産関連事業としまして、漁業と水産加工研修所の創設をして、設置をしていただきたい。

その事業内容は、沿岸漁業の振興をまずしまして、次に定置網漁業の復活をすること。増殖、養殖、漁業の事業化をすること。水産加工製品の開発をする、そのようなことをする研究所、研修所をつくってほしい。つくられたらどうですか。その点についてお願いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） こういった研修所の設置、当然、浜坂漁業協同組合との連携プレーは必要だと思います。そういった点で、関係者と一応話を聞いたりして、研究はしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 漁業水産加工業は、また水産物を利用した珍味とか食品加工業者、新温泉町町内にはたくさんありまして、もう大きな企業から1人でやる行商人からたくさん従事しておりますし、基幹産業だと思いますので、早急に、この施設を設置するようにお願いします。

大きなものは、研究所とか研修所なんかは大きな館になるんでしょうけど、まず、漁業者がやっておられることの後押しをお願いしたい。というのが、定置網漁業の復活ということですが、この居組地域には、戦前から平成何年までかは定置網漁業がありました。旧浜坂町内では、居組、諸寄、諸寄は釜屋ですけど、浜坂にもありました。その大きな3体ぐらいありまして、水揚げ高も、漁業者内でいけば、上位クラスになります。底びき船の1隻当たりには、総額が変わらないぐらいの水揚げ高を誇っておりました。そういう地元にとっては大事業なんです。漁業者にとっても大きな事業で、10人から15人雇われておりました、大変雇用とかに貢献されております。そういう事業をされておりましたんですけど、時勢柄閉鎖せざるを得なかった、廃止、廃業に至っておりますけど、大変、定置網漁業は省エネ型の漁業でして、水揚げ高も、今の金額でいえば1億円前後で安定するんじゃないかと思えますし、雇用も10人から15人、町の、村の、浜の活性化になります。それを復活されたらどうかな、この方法については、地元の漁業者と漁港と協力して、事業を起こすというような意思がなければできないと思えますので、その後押しとして、第三セクター方式なんかも考えられまして、町が若干の設備投資を支援してあげるというような政策を考えていったらどうかと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 定置網っていいですか、平成27年まで釜屋地区で定置網が行われておったということを聞いております。その後、高齢化や人手の問題、それから漁獲が減る、そういったことでなくなったということも聞いております。先ほど、第三セクターでというお話だったんですけど、これもやはり漁業協同組合などとの連携が必要だと思います。いろんな面でそういう組織といいますか、形ができれば、支援はさせていただきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 本当に連携すれば可能性があるので、ぜひこれを地区と漁協と連携して、ぜひ実現させてください。必ずや、水揚げ高は維持できますし、雇用もありますし、10人、15人ありますし、町の歳入に貢献しますので、これは期待すべき復活事業かと思えますので。

次に行きます。商工観光事業の振興ということで、海の駅の開設。これは、全国どこ

に行っても、海岸線のある市町村は大体今、道の駅でなしに海の駅という名称で、海の駅何々、ここだと山陰ジオパーク海の駅でも、というような愛称はついておるんですけど、海の駅というのは海岸線にはずっとあります。この近くでいけば、京都府に入った宮津とか、それから舞鶴、敦賀、富山、日本海辺は、大きく言えば新潟県の寺泊とか、海産物の市場、大きな市場があります。そこが小売店もたくさん200店ぐらい入っとる大規模な海の駅、海の市場ですけど。山口県からずっと、日本海ずっと回ったら、いろんな海の駅あります。そこは、ほとんどが採算が合ってます。道の駅はほとんど、議論しておりましたけど、七、八割方は苦しいように聞いておりますけど、海の駅はその点はまだまだ続くんじゃないかと、私は自負しておりますけど、そういうものを開設しようと思っておりますが、どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 話としては大変すばらしいと思っております。ただ、実現はなかなか、現状では厳しいかなと思います。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 一般質問じゃあ、話だけじゃいけないと思いますよね。なぜできないのか、どのぐらいの規模か、どのぐらいの内容か、よく聞いとられますか、調べられておりますか。なぜ、こういうことを出しておるか。道の駅だけで、海産物の商品がそろいますか。そしたら、海の駅でもつくったらどうですか。特に地域活性化のために、地区住民がこれは望んだることですよ。漁協の組合長とも相談しましたよ、やってくれないかと。こんな水産王国の新温泉町が、海の駅がないのかと。松葉ガニやホタルイカ、日本一じゃねえかと。あなた方、カレイ類とか、ハタハタとか、これもほとんど日本一なんですよ。1位でなくても、もう3位以内に入ってますからね。単独漁協がそのぐらいな事業を行っとるんですよ。その点、重要な基幹産業なんです。そこで、生出荷もいけるし、加工品もね、加工業者、水産珍味業者、水産食品加工業者、オール水産が製造しとるような生産高、すごいものがあると思っておりますがね。経済力も、基幹産業以上ですわね。だから、その点、特にそれは前向きですから、もうすぐ立ち上げてほしいと思っております。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員がおっしゃるとおり、浜坂漁協の水揚げは約30億円以上と、ここ3年連続なっております。経済効果は約3倍ということを知っておりますので、実質は100億円近い経済効果があると思っております。農業生産は畜産入れても約10億円ですから、その10倍ということで、宮本議員のおっしゃるとおりだと考えております。

そういう意味で、漁業の町としてもっともっと力を入れていきたいなという強い思いはあります。そういう意味で、ことしの予算も、浜坂漁協との、何ていいますか、強い要望もあったりして、販路開拓ということで予算も大幅につけております。

ただ、この海の駅については、今後の大きな宿題かなと思っております。いろんなところを見て、研究はしていきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） いろんなところを見て研究します。私もついていきますので、もう、すぐ、研究ですか、視察行きましょう。

次に、海の温泉についてですが、これは海に見える、夕日に見える展望風呂、前々回いうか、私も海の温泉つくったらどうか、展望風呂をつくったらどうかということをご提案しておりますので、またこれは検討しといていただきたいと思えます。

次に、生活環境、健康福祉についてですが、空き地空き家対策として、現在、居組地区ではシェアハウスなんか、民間で経営されとる人が1軒ございます。また、移住定住者も高齢者の実績もあります。この点について、どのように思っておりますか。どういう対策で事業を行っているか、お聞きします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） シェアハウスというの、私も利用したりして、いろんな案内があったりして行ってきました。ある大学の生徒さんとの交流の場であったり、出席させてもらったんですけど、いろんな使い方をされています。浜坂病院の石川先生なども頻繁に使っていらっしゃいますし、そういう意味では、個人が立ち上げたこのシェアハウスは非常に活用度も高いですし、地域の大きな活性化の拠点にもなりつつあると思っております。そういった意味で、PRも含めて活用につなげていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） ぜひ、イベントPR等の協力してやっていただきたいと思っておりますし、ぜひ、老人も移住定住しやすい、本当に居組という名称のごとく、私が小さいころから聞いておりましたが、居組いうのは、いながらにして生活ができるということをご居組と言うそうです。こじつけかもわかりませんがね。いながらにして、婚姻もできると、結婚もできるといふ、非常に温かい。だのに、人口減少しとる、子供ができなかったの不思議なんですけど。余り、交通の便がよ過ぎて、鳥取が経済圏内になって、鳥取で生活されとる人は結構おるんです、鳥取市内で。JRもありましたんで、昔から、居組駅は複線の貨物列車が荷物を積めるような、大型の居組駅でしたんで、経済は本当に諸寄や浜坂以上に活性化しとったんじゃないかなと。戦前、戦後ね、特に、思えます。そういうところですので、そこは過疎化が進んで。しかし、そういう自然に恵まれて、経済的な関係も恵まれて、生産性はあるとこだと思えます。経済的な立国でもなると思えますんで、大いにこのインターチェンジができますんで、それを活用して、通過点ってなるんじゃないかと、ストロー現象で逆に過疎化が増すんじゃないかというの、町長の心配も、先ほどの答弁からありましたけど、私は逆に打って出るべきだと思えます。町長もそのように昔、昔じゃないんですけど、町長の所見の中で利用して、活性化して、取り込むんだと。利便性もよくなる、時間短縮するんやから、居組地

区に来てもらう人のような事業をしてほしいということで、海洋公園、海洋王国にしたらどうかというのを提案しとります。

各種事業については、質疑が一応終わりますが、もっともっと言うべきことはあるんですけど、私が言うより、この前8月10日に豊岡市の市民会館で開催されました北近畿豊岡自動車道・山陰近畿自動車道早期実現促進大会、決起集会たるものが開かれましたね。町長も出席され、議長も産建の委員の方も出席されておりました。このときの意見発表で、たまたま浜坂西小学校6年の生徒さんが意見発表しとりました。今回、但馬管内で小・中・高1人ずつと、一般社会人が1人でしたかね、その意見発表、4名のうちの1人に選ばれて、こういう意見を発表されておりますんで、それを若干読み上げたいと思います。

内容は、私は授業で、山陰近畿自動車道について学びました。山陰近畿自動車道は完成するとうれしいことが3つありますと。1つ目は、移動時間が短くなることです。これは鳥取の中央病院まで34分が30分になるということでした。2つ目が、災害や大雪に強い道路になるということです。大雪のときに通勤者がたくさんおりますけど、そういう方々、トンネルがたくさんできるので、便利になりますという内容でした。それで、3つ目は、観光客がふえるということですと。そういううれしいこと、3つ上げられておまして、しかし、ここからが大事なことですけど、しかし、山陰近畿自動車道ができると、心配なことが1つだけありますと。それは、新温泉町は通過するだけになってしまうかということですと。そういう心配をされておりました。じゃあ、それをどうするかということで、解決策になろうかと思う。例えば、湯村温泉かくれんぼ大会のようなおもしろい計画をしたり、観光客も無料で温泉に入れる風呂の日をつくったり、シンボルとなるような大きな建物をつくったらどうかと思いますと。後で言います。今回、山陰近畿自動車道の話聞いて、道路ができれば、町内の人が安心して生活ができ、そして、町が栄えるということがわかりました。私たちが大人になるころには、道路が完成すると聞き、すごくわくわくします。山陰近畿自動車道によって、新温泉町がいろんなところと便利につながって、さらに住みよい町になると思うと、道路ができるのが楽しみですと発表されてました。

町長もお聞きになって、参加者おられますんで、私はすごく感動しまして、この意見発表の中で全部私が今、町長と質疑しました中身がそのとおりこの文面にあらわれておりますんで、また、私、浜坂西小学校の校長先生に問い合わせまして、これをぜひ使わせてくれということで、原本コピーでいただいておりますので、許可得ますんで、教育長、よろしいですか。また、それを町長にお見せしたいと思いますが、町長、教育長、よろしいでしょうか。

ということで、私の居組地域の地域活性化のために海洋公園、海洋王国するということ切に提言しまして、私の1件目の質問に返します。町長、どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 居組から諸寄にかけて、浜坂Ⅱ期の道路が完成すると、交通量は大幅に減るわけです。しかし、一方ですばらしい日本海夕日ライン、日本海、すばらしい海があります。こういった景色や自然環境をどう生かすか、そういったところを中心に今後、過疎に拍車がかからない、逆に、Ⅱ期道路を走る方はふえると思いますので、逆に、居組、諸寄に誘導できるような、そういうことを考えていきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） では、2件目に入ります。

2件目は漁業振興についてです。現在、本町は漁業者の漁船漁業経営安定化の支援として、漁船保険支払い保険料を支援しております。その漁船保険支払い保険料の助成率を引き上げることが提案したいと思います。

現在、要綱によりますと、補助率は、小型漁船が20%、大型漁船はただの5%というので政策はできておまして、これ、平成25年からできて、現在まで続いと思うんですが、補助率が何年間据え置きということで、なぜ、これを提言するかということ、現在の本町の水産業の現況を見ますと、特に底びき網漁業の漁船が大型化しとるんですね。皆さん、御存じだと思いますが、昨年度、150トンクラスの船が新船建造されまして、総事業費が7億円かかっています。そのクラスが今、以前の100トンクラスが150トンになりますので、船価もその分、5億から7億ぐらいにはね上がっています。そうすると、船価が上がりますので、漁船保険料が高くなりますわね、当然ね。皆さん、自動車保険でも御存じだと思います。そのように保険料が、聞きますと、年間に700万円ぐらいは必要だそうです。現在、浜坂漁協の所属船の中で、向こう3年間に3隻ぐらいの新船を、大船建造するという計画はあるそうです。多分、150トンクラスは2隻ふえる。今度また、70トンクラスは1隻になると思いますけど、これは構造が鋼船とFRPの違いがありますが、そのように漁船漁業者、底びき漁業者は元気出しております。この不況の中で、経済成長率の低い中で、漁業者は頑張っております、そういうことを見ると。維持、継続、やっていますよ。それは並々ならぬ経営努力によって続けておると思います。それを理解すれば、7年間据え置きは気の毒じゃないかと。できたら、大型船の700万円を5%でやると、35万円です。そしたら、前回は5億円以下でしたんで、200万円ぐらいの保険料だったんですが、一挙に700万円になりますので、非常に経営も圧迫してきます。新船建造のときですから、非常に経費も増嵩をしますのでね。できたら、これを、5%を50%ぐらいといって要求したいんですけど、予算の都合上ありましようから、まずは20%ぐらい、小型並みに助成されたらどうでしょうか。ということ、今回、提言、提案したいと思いますが、どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、この漁船の保険料については、大型船、今年度ですけど、14隻で、町からの補助が5%で、総額121万3,000円、それから沿岸漁船につい

ては166隻で、保険料の2割負担ということで、総額で158万7,000円を保険料として補助をいたしております。当初、この保険料を出すようになってから、今年度で7年経過をいたしております。そういった意味で、議員御提案のもっと増額をとということですけど、今後検討したいと考えております。

○議長（中井 勝君） 10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 今後検討ということですけど、先ほどから言いますように、水産業、漁業のうち、沖合、底びき網漁業は基幹産業中の基幹なんですよ。その方々が14隻のうち4隻も新規投資すると。新規投資ということは、どんなことだと思いますか。町は夢ホール改修ですね、町がすること。本来なら町がすることは、夢ホールなんか別に、大きなもん建てるのが町のすることです。漁業者は改修、改良、改善じゃない。新しいもんつくるんだと。7億円かかるんですよ。町長も民間の経営をなさっとると思うんですけど、どんなに事業投資するっていうことは困難なこと、難しいことか。議員の中にも社長おられますけど、大変だと思いますよ。7億の事業をどうしてつくるんですか、資金を。大変なことですよ。命をかけたんですよ。1人だけじゃありませんよ、家族や社員、乗組員。漁協全体が応援しとるんです。生業を漁業に依存しとるんですよ。町も依存しとるんです。その町が、たったの700万円のうち5%ですよ。いいんですか。7年前はそれでよかったかもわからんけどね。でも、先行投資でやっていこうという人が今おるんですから、去年おって、今後3年以降、まだ先待っとるんですよ。本来は14隻やってもいいですけど、船をつくる造船所が全国探し回ってもないんですわ。だから、この浜坂町内で使う底びき漁船のつくれる造船所は、今のところ鉄鋼船で1カ所しかないんです。これは、島根県の松江市ですけど、1カ所。そこの船台があくのが、3年間かかる。待っとるんですよ、順番をね。という中で、今後2隻ふえる。もう1隻は70トン型ですので、FRPですから、これは5年待ちだそうです。FRPの船つくりよう思うたら、造船所を探してつくるには、5年待たんと、造船所はないそうです。そういう現状の中でやろうとしておるんですから、その点をよく勘案されまして、考慮されまして、すぐ、これ来年度には間に合うように、今年度でもいいですけど、補正でもいいですけど、間に合うようにしてあげたいと思います。どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本年度はもう既に予算で動いておりますので、来年度考えます。

○議員（10番 宮本 泰男君） 考える。

○議長（中井 勝君） 宮本議員、残り時間が少なくなっております。整理をお願いします。

10番、宮本泰男君。

○議員（10番 宮本 泰男君） 再度、実現することを要望します。以上です。

○議長（中井 勝君） これをもって、宮本泰男君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。10分まで。

午前 9時53分休憩

午前10時10分再開

○議長（中井 勝君） それでは、休憩を閉じ会議を再開いたします。

次に、2番、太田昭宏君の質問を許可します。

2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） ただいま、議長より発言の許可を得ましたので、質問を始めます。

議会は年に4回開かれています。3月、6月、9月、12月、この9月の議会が終われば、私はそれぞれの議회를2回ずつ経験したことになります。間もなく、任期の半分が終わります。この2年間で思うことは、議会も行政も、議員も職員も、町の発展を願い、地域住民の方々の幸せを願い、取り組んでいるということです。同じ思いであれば、眉間にしわを立てず、穏やかに前向きな気持ちで質問をしたいと思います。ただ、もう一つ思っていることは、町長の答弁の検討するということは、ほとんど検討されず、とてもよい意見、考え、参考にしたいも、提案が実施される可能性は高くはありません。

それを踏まえながら、まず、エコ・コンパクトタウン構想について質問をします。

町長は、地球誕生から現在まで、どれくらいの時間が経過しているか、御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 約46億年と記憶しております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 46億年です。しかし、この46億年と言われても、実感が湧きません。

そこで、皆さんもどこかで聞いたことがあると思いますが、地球の誕生を1月1日元旦の午前0時とし、現在までの46億年を1年分のカレンダー、365日であらわした地球カレンダーを使いながら考えてみたいと思います。元旦の午前0時、地球が誕生し、生命と言われるものが誕生するのが36億年前、大体3月21日ごろです。皆さんがよく知っている恐竜の全盛期、これは1億年前ですが、12月25日、クリスマスの日です。恐竜が絶滅し、哺乳類の時代となるのが、6500万年前、12月27日です。大みそかが近づいても、まだ人類は登場しません。やっと人類の先祖がアフリカに登場するのが、大みそかの12月31日午後2時30分です。現在の人類であるホモサピエンスが登場するのは、10万年ほど前、12月31日午後11時49分、NHKの紅白歌合戦が終わり、除夜の鐘が鳴るころです。そして、文明が誕生したのが午後11時58分34秒、産業革命による近代文明が始まったのが日付が変わる直前の午後11時59分58秒です。長い地球の歴史を見れば、近代史はたった2秒です。私たち人類は、こ

のたった2秒の間にさまざまな環境問題を引き起こしています。二酸化炭素排出による地球温暖化現象、プラスチックごみ等による廃棄物処理問題、砂漠化や熱帯雨林の減少など、大きな自然の変化、一瞬に存在した人類が地球の歴史を終わらせることになるかもしれません。このことについて、町長はどう思われますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 非常に哲学的要素も含めた質問だと思います。それに対してどう思うか。人類はちっぽけな存在だということを思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） この地球の危機を考える上で、小さなこの町が提案している地域の恵まれた自然から生み出されるエネルギーを活用して、新しい産業の創造や地域の活性化、環境に優しいまちづくりを目指すエコ・コンパクトタウン構想はとて素晴らしい取り組みだと思います。この構想の進捗状況はどのようになっているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 我が町には温泉を初め、いろいろな自然環境に恵まれております。そういった特性を生かす地域の環境、それから経済性、地産地消、いろんな観点でこの自然の恵みを生かす。そういった趣旨で、エコ・コンパクトタウン構想がスタートいたして、今日に至っております。いろんな点で、先日、意見いただいたとるEVカーもそうですし、いろいろな観点で、エネルギー、町の特性を生かすということで、現在、エコ・コンパクトタウン推進協議会などを通して、町の自然エネルギーなどをどう生かしていくか、こういうことに取り組んでいます。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） この構想、平成24年と聞いていますが、そこから具体的な取り組み、具体的な、これができたということはあるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 具体的にというか、一番大きなエネルギーの利用としては、やはり入浴、お風呂、ボイラー、油使わずにお風呂に入っている。こういった現実が最も大きいエコ・コンパクトタウンのトップに上げられると思います。あと、具体的に、これ投資とリターンが必要なんですけど、浜坂中学校におけるランチルームの太陽光発電、それから浜坂観光協会における太陽光発電など、こういった設備を設置をいたして、効率運用に寄与しているという状況であります。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） この構想では、再生可能エネルギーとして太陽、温泉、風、バイオマス、水、クリーンエネルギーを上げています。これらの再生可能エネルギーを積極的に公共施設へ導入することが提案されています。他市町を見ますと、学校の校舎、屋根の上に太陽光パネルを上げたり、公民館等にも設置されてる様子が見られま

す。この公共施設への導入という部分で、どのような進捗状態になっているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほど言った2つの施設で利用をしております。また、湯区では温泉を活用したバイナリー発電、これ現在、故障でストップしておりますが、バイナリー発電。それが現在であります。

今後の公共施設におけるそういった太陽光発電の設置については、現在検討をいたしております。一方で、売電ですね。買い取り価格が劇的に安くなっております。当初、40円以上だったんですけど、現状では18円。それから、将来的には8円まで下がると。こういう流れがありますので、これについては大変採算という点では難しい。それから、一般の家庭の太陽光発電、補助金出してやっとなんですけど、設置がどんどん減っております。こういった現状見ても、やはり100万円投資して設置しても、たかだか太陽光の売電が当初は1万円以上あったものが5,000円とか、非常に下がっているという実態がありますので、この太陽光発電についても将来的にはなかなか難しいと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 太陽光を生かした太陽光発電は、今さまざまな場所で目にすることがあります。この太陽光発電のメリットとしては、CO₂を排出しないこと、空気を汚さない、騒音もないということで、世界中で導入されています。また、災害等で停電になったときも、自家発電の装置として活用ができます。そういうたくさんのメリットがある中で、先ほど町長は売電価格等のこともおっしゃいましたが、この町の構想、優しいまちづくりということをさらにアピールする上で、売電価格云々よりもやはり宣伝効果、イメージとして、太陽光発電を積極的に導入していくということは大切ではないでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういう視点も当然あると思います。それで、例えばゆめっこでは、温泉を床暖房に使う。こういった配管は済んでおるんですけど、床暖房の設備を設置済みです。そういったところで、温泉を床暖房に使うことによって、さらに節電を図る。エアコン代も要らなくなりますし、そういうことも十分考えられますので、もっとも太陽光という視点よりは、温泉をどう生かしていくかという、そういう視点のほうが我が町にとってはメリットは大きいと考えております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 温泉にしる、太陽光にしる、それぞれメリットがありますし、先ほど申し上げたように、災害時における発電確保ということもいろんな状況を考えれば、メリットの一つかなと思います。さらに、温泉、太陽光発電を踏まえながら発想を広げていく、今町長がおっしゃったように、発想を広げていくということが非常に大事だと思います。

例えば、たまたまきょう、神戸新聞を見たら、ソーラーシェアリングということが載ってました。つまり、今、放棄田に太陽光発電パネルを設置してるところはたくさんあるんですが、耕作地に太陽光パネルを設置し、農業と発電を両立させる。そうすれば、農家にとっては、農業と売電の収入があり、収入が安定するのではないかとということも言われています。そういう発想を広げながら、いろんな自然エネルギーを活用することについて、町長はどのように思われますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） テレビや新聞でも、そういったニュースは聞いております。積極的に使っていけるところは使っていったらいいと思っております。売電という、太陽光のメリットは自家消費で蓄熱して、蓄電、電気をためて使うという、今後、流れは、売電から、今言われたように、災害時であるとか、自分の自家消費で使う。こういう流れは、太陽光発電については加速するのではないかと聞いております。ただ、蓄電池は非常に設備投資、めちゃくちゃ高いですし、投資とリターンが合うかというのは、それぞれ検討が要ると思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 最近、設備投資にかかる金額もかなり下がってきてると思いますし、前向きに検討をお願いしたいと思います。

あわせて、風力に関するのですが、再生可能エネルギーの評価で、賦存量、利用可能量とも最も高いのは風力エネルギーです。この風力エネルギーの活用について、町長はどのようなお考えを持っていますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当町では、風力発電計画が持ち上がっております。私も地域の方々も反対ということで、規模次第ではないかと思っております。地域に合った形で風力発電が設置されれば、何ら、何ていいますか、地域の音であるとか、いろんな環境に及ぼす影響が少ない地域であれば問題ないと思っております。それには、地域の合意形成も含めて、そういったものがクリアできれば、風力はエネルギー効率としては非常にいいということも聞いておりますので、別に問題はないと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 再生可能エネルギーの利用を促進するためには、今町長がおっしゃったようなことを、事前に町の基本姿勢として定めておく必要があるのではないかと思います。先日の同僚議員の質問にも、風力発電反対の署名の件がありました。私も、山を削り道路をつくり、自然の関係を变えるような工事、動植物に対する環境の変化をもたらす工事、風車設置による低周波の問題、この静かな、この豊かな自然に恵まれたこの町として、自然と共存していることは大切なことです。このような大きな開発は必要はないと思います。町長も今おっしゃったように、反対の姿勢を表明してます。ただ、開発に関する問題は、この風力だけではなくて、いろんな他の再生エネルギーに

対しても同じような問題が起こる可能性があります。今おっしゃったように、ある町では再生可能エネルギー利用について、本来的に地域の共有資源であり、地域の受益に配慮して行う。地域の持続的発展に資するよう地域の条件に配慮して行う。地域での影響に配慮して行う等々の基本的な姿勢を示しています。これをこの24年、この構想が始まるころに、町としての基本姿勢を示しておけば、この大きな開発が、風力発電の開発がこの町に来て、慌てることなく、もっとスムーズに対応できたのではないかと思います。ぜひ、今おっしゃったことを町の基本姿勢として示していただけたらと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回の風力発電の問題点は、巨大な、全国でも建てたことがない、高さが150メートル、そういったものが21基も建てると。しかも、山陰海岸国立公園、それから県立自然公園、いろんなそういった指定地を上手にくり抜けたところで、そういう風力発電が建てられるという計画、それから外資であるとか、いろんな、会社における信頼性、それから建った後の災害であるとか、撤去はどうなるんだとか、それから交通事故の問題であるとか、いろんな課題があるわけです。そういった問題を事前に論議して、エコ・コンパクトタウンが立ち上がったわけではないと思っております。今言われたような、十分な論議は必要だと思うんですけど、課題はその都度出てきますので、そういったものを十分チェックというか、確認をしながら、こういった構想を進めていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） さまざま課題をクリアしながら進めていただきたいと思っております。

ただ、この風力については、やはり今、小型の風力発電機等もできていて、非常にこう、風を切る音もなく、回転していても静止状態と同じような静かな音で、そういう発電機があります。これを高台にある浜坂中学校やジオパーク、海のそばにありますから、これを屋根の上に取りつけるとか、本当に風力計みたいな小さい風力発電装置を設置することをすれば、やはり環境に優しい町という部分もアピールできますし、子供たちにも環境に対する関心も高まると思っておりますが、そういう点はいかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 投資せずに、できるだけ投資を少なくして、やはりその効果を最大限という、そういう設備投資はしたいと思うんですけど、風力発電にこだわる必要はないと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 1つのものが1つの結果を出し、効果を出すものではなくて、さまざまな視点から考えていただけたらと思います。別に風力発電だけではなくて、ここで取り上げられている自然エネルギーについて、もっと町の実態に合うような

エネルギーを導入することについて、さらに考えていただけたらと思います。

次の質問に入ります。2番目の公民館の機能と役割について質問いたします。

公民館というのは、交番と同じように、外国でも公民館というだけで通用すると聞いています。この公民館の機能を充実すれば、今まで指摘されていた町の課題も幾つかは解決できるのではないかと思います。

まず、町内に幾つの公民館があるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、新温泉町には地区公民館が10カ所あります。そのうち、地区公民館として建物を有しているのが6館、具体的には赤崎、久斗山、居組、春来、照来、八田であります。残りの4館、諸寄、大庭、久斗、三尾は、学校や地域のコミュニティセンターなどの施設を借りて、運営を、活動を行っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 公民館は、住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として設置されています。現在、この町の公民館はどのような形で利用されているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域のコミュニティー、それからいろんな会合、会話の場として使われていると思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 公民館には、集う、学ぶ、結ぶの基本的な役割があると言われてます。今、町長がおっしゃったように、地域住民の交流の場や憩いの場としての役割、趣味や生き方に応じたカルチャーセンターとしての役割、掲示板や公民館だよりによる地域への情報発信の役割、活動への呼びかけやコミュニティーの拠点としての役割、学校や関係機関、団体との連携、これらの役割が充実すれば、子育て、婚活、人権学習、地域連携、学校支援、地域活性化などの課題の解決につながると思います。各公民館長はさまざまな工夫をしながら、公民活動を続けています。例えば、都会であれば、カルチャー教室もたくさんあります。学びたいことを学ぶ場所として、公民館の活用も一つだと思えます。これらの公民館の活動について、町長はどのように思われますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 公民館のあり方、実は、旧温泉エリアと旧浜坂エリア、もともと公民館に対する考え方に違いがあります。旧温泉エリアでは、公民館活動は要らないという、そういう認識の地区もあります。そもそもふだんの中で、公民館活動と同じようなものをずっと過去やってきたということで、改めて公民館という位置づけがなかなか理解できない、そういう背景があったと思っております。公民館活動はこうだよという定義があるかと思うんですけど、要するに地域の交流の場として、地域全体がそこで

集う、楽しむ、そういう拠点になればいいなという思いはあります。

ただ、公民館があるからやらなければならない、なければというか、義務的な公民館のあり方でなしに、やはり住民が率先して、公民館があったらいいな、それを町が支援する。そういう位置づけのほうがよりスムーズな運営ができると。例えば、いろんな設備が欲しいなといった場合、町がバックアップするとか、そういう形のほうが、地域の要望に沿って公民館活動がなされる。こういう位置づけで、公民館運営がなされたらいい。そんなふうに考えております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） やっぱり公民館活動として、公民館の役割というのはあるわけですが、ただ、義務的にその公民館を活用するのではなくて、さまざまな要望、課題解決のための、例えばこういう施設をつくったらとか、こういう取り組みをしたらということがたくさん町にも要望として上がってきていると思います。それを、新しい施設をつくったり、新しい人員を配置するというよりも、既に既存の施設として、公民館があり、それがコミュニティーの拠点になっているのなら、そこを幅広く活用することが、町の行政を進める上でも大きな力になるのではないかと思います。いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 実は、一番ポイントは人材、そういう館長なり、そういう方が鍵になって、主役となって、そういった地域をまとめていく、それから事業推進を図っていく、そういうことだと思います。人材不足、高齢化、いろんな背景があって、できていない地域もあるわけですが、ぜひそこは行政がこう持っていけという形に持っていくよりは、やはりそういった地域住民の声を主にして運営していくような形が望ましいと。そんな考えのほうが、本来の地域のコミュニティーが維持できる大きな、何ていいますか、これからの将来にわたっても、そういう方向のほうが私はより自然だと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 今、町長がおっしゃるとおりだと思います。公民館長は地域の世話役みたいなポジションもあり、地域のことをよく知っています。ぜひ、町としての条件整備、支援体制というのを構築していただきたいと思います。例えば、条件整備として、エアコンの設置、何回も以前から言ってますインターネット環境の整備、避難所としての指定を受けてるところもありますから電源確保のためのソーラーパネルの設置、そういうハード面の整備等あわせて、館長を補佐する主事の配置、あるいは、きのう、地域おこし協力隊のことも出ていましたが、そういう方を活用しての人材確保、あるいは個々の公民館でボランティアを募集することは難しいので、どこかが中心になって、何か特技を持ってる人、あるいは無償で労力を提供する人などの人材バンクを創設していただいて、地域の実態に即し、地域の思いの中で推進される公民館活動をして

いき、支援もまた町のほうにできるだけ活動しやすいような条件整備もしていただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） できるだけ、公民館活動がスムーズに、なおかつ活発に運営できるように、支援体制を充実を図っていきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 公民館の活動の展望ということを質問に上げていますが、先ほど町長のお話の中で今後の活動の様子、展望等もわかりましたので、そこは省きたいと思います。

次に、町の教育の特色と将来についてお尋ねします。

議会最初の議長の挨拶にもありましたが、夏休みが終わり、日やけした子供たちが元気に登校する様子をうかがうことができました。静かだった校舎に子供たちの声に戻り、新学期が始まっています。しかし、一方では、昨日の同僚議員の質問にもありましたが、みずから命を絶つ子や、登校できない子供たちの様子が報道されています。本町の小学校や中学校の子供たちの新学期の様子はどうだったのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 新学期迎えまして、私も当日の朝、西小学校のところに行って、子供たちが実際に登校してくるところも見まして、地域の皆様に本当に支えられてるなということを実感しております。

子供たちは、全員が出席ということにはなっていないんですけれども、体調が悪くて欠席した児童もおりました。でも、みんな宿題を持ってきて、新聞にも出ていましたけれども、笑顔で教室の中で語ってる様子とか、いい2学期のスタートが切れたと報告を受けております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） それをお聞きして安心しました。今、教育長のお話の中に、宿題ということがありましたが、夏休みに宿題がたくさん出てると思います。私たちが子供のころは、夏休みの友、日記、図画工作ぐらいだったと思いますが、今の子供たちにはたくさんの宿題が出ています。その宿題が夏休み明けまでにできないから、学校に行きたくないという子もいるようです。その宿題の量について、教育長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 宿題の多さについては、ずっと感じているところがあります。本当に学校以外のいろんな自由に出すものだとか、宿題の中にも本当にこなせないで困っている子供たちもたくさんいるってことはもう認識をしております。

各学校がどんな宿題を出しているかというところまではちょっと把握できておりませんので、また把握しっかりして、来年度というか、冬休みもありますし、考えていきたく

いとは思いますが。

ただ、地域の中で、そういった子供たちの支援をしていただくということで、公民館でしたか、地域の方がボランティアで宿題に困っている子供たちを集めて、学習する場を設けていただいているということも知りまして、本当に地域挙げて、こうやって子供たちのことを応援していただいているということは、本当にありがたいなと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 大きな声では言えませんが、宿題支援のボランティアというのは、私たち、退職した教員で取り組ませていただきました。ただ、事前の広報が十分でなく、参加する子は少なかったです。

中学校であれば、学年団があって、宿題の量というのをそこで調整することも可能ですが、小学校は学級担任ということで、調整も可能だと思います。ただ、たくさんの作文や絵や工作や、いろんな関係団体や県教委からいろんな要請がありますし、そのことも後でちょっと言いますが、十分吟味ができるような状態をつくっていただけたらと思います。

先日、学力状況調査の都道府県の結果が新聞に載っていました。教育委員会にも各校のデータが届いていると思いますが、結果の分析については今後と思いますが、町長、この結果について、町長はどのような感想を持たれていますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私はデータを見ておりません。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 教育長はどのような感想を持たれていますか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 結果を見まして、今現在、分析委員会も立ち上げ、また各学校での分析を指示をしております。今回、A、B問題から総合的な1つの問題になったということもありまして、問題形式が大きく変わりました。その中で、子供たちがやっぱりその問題に対して大変苦戦をしている様子がかがえました。考えて表現するとか、そういったことがやっぱり応用的な問題がすごく難しかった。問題を私自身も見ましたけれども、これは難しいと感じる子供たちが多いただろうなと思ってましたけれども、そういった結果が出ています。

今後、基礎、基本の定着と考える力や応用力や表現力、そういったこともしっかりと身につけさせていかないといけないと感じております。これから分析をしていくんですけども、小学校6年と中学3年生で調査があるわけですけども、その学年だけのことではありませんので、やはり小学校1年生から、もっと言えば幼稚園からそういったことをしっかりつないでいくということが非常に大切だと実感しております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） この新温泉町の教育は、この町の風土に育つ子供たちにとってどのような教育を施しているのか。教育の特色をお聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本町の教育の基本理念の中に、「豊かな人間関係を築く～生涯に渡って生き生きと輝く教育～」ということがあります。目指す人づくりの中に、「ふるさとを愛し、人と自然にやさしく未来を切り拓く人」「夢と志をもち自らすすんで学び続ける人」「心も体も健康で豊かな人間関係を築く人」そういったことが上げられています。

本町は本当に自然が豊かで、いろんな文化財というか、そういった教育にふさわしいたくさんものがあると思います。その中で、特色として、ふるさと教育にずっと力を入れてやってきていただいているんですけども、そういったさまざまな体験活動が今行われております。各小・中学校、幼稚園、園でも地域の皆様に御協力を願いながら、地域学習に取り組んでいます。また、学力、また体力向上に向けての特色ある取り組みも、非常に運動面なんかについても水泳とか陸上とか、マラソンとか、放課後の子ども教室だとか、そういったものが非常に盛んだなと思ってやっております。それから、外国語教育に対しても、外国人の受け入れと海外派遣、また、認定こども園へのALTの派遣とか、そういった特色もあります。そして、幼・小・中連携も、高校へもつながりますが、そういった連携教育も特色の一つとっております。それから、情報教育でも、各教室にテレビがありまして、タブレットも持って、すぐに先生が大きく画面に映し出してというような教育もしております。以上です。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 今、ふるさと教育体験活動ということが出ましたので、ちょっと質問の順番を変えさせていただいて、まず、1つお聞きしようと思ったのが、前教育長が辞任されて、教育長が変わり、ふるさと教育が特に力を入れていたのが、今後どうなるかということをお尋ねしようと思いましたが、先ほどのお話の中で、ふるさと教育、重点的に推進するというようなお言葉だったので、そういうふうが続いていくのかなというふうに理解しました。

それで、ふるさと教育に関して、ふるさとを離れて、他町、都会で生活する人、この人たちとふるさとをつなぐものというのは何だと思いでしょか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 一度外に進学したりとか、就職したりということで、出る人たちもたくさんいます。その中で、また戻ってきたいと思うような子供を育てる教育がとても大切だと、それがふるさと教育にもとっても大切なことだと思っています。ふるさとを愛し、誇りに思える、この地域を誇りに思える。好きだって言える子供を育成するために、小さいときから、やはり地域の皆さんとの触れ合いの中で、自然や歴史や文化や地理に触れること、知ることがとっても大事だと思っています。学校や家庭や地域

がとにかく連携をして、一緒になって子供たちを育てる。子供は地域で育てる、そういう意識で、やはり学校教育だけではなくて、いろんなところから御協力いただきながら進めていきたいと思っていますし、とっても大事だと思っています。

ある作文に、私、すごく感銘受けたんですけれども、この地域の子供が書いておりました。地域の方が温かく見守ってくれるから、この地域は好きだと。そして、その伝統芸能を地区全体でこれ取り組んでおられる地域の方の姿を見て、心が動かされたというようなことがありました。やっぱりこういうことで、地域の中で子供たちが、地域の皆さんが取り組んでおられること、地域を大事に思っておられること、そういったことが子供の心に響いていくんだと思います。そういうことが基礎にあったら、1回出ても、やはり年齢を重ねるときに、あっ、新温泉町いいところだっていうふうに振り返ってくれるんじゃないか、そんな思いで教育がとっても大事だと思っています。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 私も、今教育長のお話のとおりだと思います。ふるさとと、都会に出た人たち、あるいは他市町で生活する人たちを結ぶものは、やはり学校の勉強もあるでしょうが、さっきおっしゃったような伝統芸能への参加、あるいは地域行事、この夏休みも旧温泉町、旧浜坂町でもさまざまな行事がありました。そこに積極的に参加して、思い入れを持つことがやはりふるさとをつなぐ、ふるさとと自分をつなぐことだと思いますし、友達のこと、あるいは自然の中で、山や海や川で遊んだこと、それがやはり体験として、ふるさとと自分をつなげるものだと思います。

そういう意味で、ちょっと質問が前に返りますが、ジオパーク館、ここで津波のメカニズムを紹介する装置、川の働きを紹介する装置が導入されて、体験学習コーナーがより充実しましたよという記事、館長さんもジオパークや地域の魅力がよりわかりやすくなったと、ぜひ訪れてほしいと新聞に載っていました。町内には、ジオパーク館のほかにも、八田昆虫館や以命亭、牧場公園やB Gの艇庫にあるヨットやカヌー、すばらしい施設がたくさんあります。これらの施設を教育活動で使用する、活用する計画はあるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今おっしゃっていただきましたように、本当に教育活動で活用、利用しやすい館、施設というのはたくさんあります。町体験でリフレッシュパークゆむらを利用したりとか、夢千代館での平和学習やジオパーク館で環境学習、それからジオパークの学習とか、以命亭では町探検や昔の暮らしの学習とか、県立但馬牧場公園で但馬牛の世話を体験するとか、いろんなことをやっておりますし、今後もやっぱり、ジオパーク館については、館長さんのお話も聞かせていただいたことありますけど、すごく学びにつながるといいますので、積極的に取り組んでいきたいと、利用していきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） あわせて、以前から申し上げている自然学校での地域施設、あるいは自然の活用ということについてお聞きしたいのですが、今、児童数が減少し、多分、連合、旧温泉、旧浜坂単位で、自然学校行っても、牧場公園の宿泊施設には泊まれるキャパがあると思います。また、牧場公園の斜面を使っての1人テントみたいなことも可能です。また、自然学校で、城崎の円山川公苑を利用している海洋体験についても、B Gの艇庫の船を見れば、十分に活用できるものがたくさんあります。今までからも申し上げているんですが、なかなか自然学校を変更するということが難しいようですが、どこでどのような議論がなされて、自然学校実施ということが決まっていくのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今年度、初めてのこの地域の自然学校行って、見させていただきました。合同で小学校が体験、自然学校に行ってるんですけども、私、小学校の校長先生だとか、教育委員会も入って議論されてきたんだと思うんですけども、今後、今議員からいただいた御意見として、そういう議論する場というか、もう一度振り返ってみる場というようなことも必要になってくるのかなと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 経過として、安全面等のこともあったと思いますが、以前は、自然学校が発足した当時は、地域の民宿やいろんな施設を使いながら自然学校が行われていました。いろんな自然学校で海を使ったらということを申し上げてもなかなか伝わらないので、この夏、この美方郡内の小学校の先生に参加していただいて、13名でしょうか、SUPとカヌーを体験していただきました。皆さん、とても喜んで、おもしろいというような感想を言われ、先生方も海の楽しさを少しは体験できたかなと思います。ぜひぜひ、自然学校の1泊2日でもその地域でできるように取り組みを強めていただきたいと思います。

次に、子ども議会についてお尋ねします。以前から、子供たちの持っている才能や力をもっともっと町行政は活用するべきではないかということをご提案してきました。

今回、子ども議会が開催されるに当たり、今年度は7月に議会の出前授業がありました。中学生に町行政に関心を持ってもらうことは大切なことですが、この効果というのはどのようなものがあったのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） この子ども議会もずっと続けていただいております。子供たちが政治についての興味を持つとか、社会、3年生になればそういう学習もあるんですが、まだ1学期の出前授業をしていただいたときには深い学習ができておりませんでしたので、また2学期にそういった深い学習をする場面があります。ですので、議員の皆様に出向いていただいて、本当に詳しく教えていただいたことがまた実感として、2学期の学習の中で振り返りとかいう形になると思います。子供たちからの質問とか、そ

ういったことが今出てきているんですけども、まだ全て出そろっておりませんし、これから子供たちが町に対する夢を持った構想だとか、そういったことにつながって、明るい希望につながっていったらいいなとは思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 子供たちが持ってる夢や感覚、提案する力というのは、とてもすばらしいものがあると思います。今までのこの子ども議会の中でさまざまな提案があったと思いますが、一体どれくらいのことが実現されているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨年度も数々の提案をいただいております。実現できた部分もあったと思っております。ただ、質問が非常に、子供の的でなく、非常に高度な質問があり過ぎて、ちょっと対応に、返答に苦慮した部分があったと感じております。そういうことで、できるだけ子供たちが本当に、初めてこの議会に出て、従来の大人の発想でなしに、本当の意味ではと思うような提案が欲しいなっていますか、あったらいいなと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 多分、提案されたいろんなことについて、子供たちが将来、10年後、20年後、その視点で町を見たいと思います。その発想がどれだけ大きくても、全てを実現することが不可能であっても、やはりその方向を町として示すことが大切ではないかと思っております。

次の質問に入ります。放課後児童クラブについてです。昨日、同僚議員の質問で、放課後児童クラブの現状についての質問がありました。この現状について、教育長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） この、特に夏休みの現状なんかで言いますと、浜坂北には西小とか南小とか東小、放課後児童クラブがないところから来て、参加をしていました。そういったことで、ふだんは各地域にはないですし、そういったことも課題の一つかなと思っていますし、非常に人数、やっぱりニーズがふえてる中で、十分な対応ができたかなというか、本当に努力はしてるんですけども、難しい課題とかがたくさんあるなという認識を持っています。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 核家族化が進む中で、やはり放課後児童クラブに対する地域のニーズは高いと思います。他市町では、放課後児童クラブが小学校区単位で開設されています。以前にも申し上げましたが、照来小校区、西小校区、南小校区、東小校区でも、この放課後児童クラブを開設することができないかどうかお尋ねします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本来であれば、そういうことが正しいというか、あるべき姿

だとも思っております。ただ、現時点で、検討課題といたしますか、今後しっかりと考えていかないといけない課題ではあるとは思っていますが、もし、人材的なこととか、いろんな課題があると思うんですけども、方向として、例えば地域の皆様に御協力いただいて、地域の中で子供たちを、例えばですけども、見ていただくというか、そういった各小学校につくるとか、そういった方法もあるかなとか、いろいろ今考えていますが、今後考えていかないといけない問題だと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 保護者からの要望というのは、さまざまな形で出てきます。例えば、統合に関する問題であれば、学校を残してほしいという保護者の要望もあります。あるいは、積極的に統合してほしいという要望もあります。また、児童クラブ開設にしても、浜坂まで行くのは大変だし、できたら西小に、南小に、照来に開設してほしいというのも要望です。全ての要望に多分応えることは難しいと思いますが、しかし、先ほど教育長が話をされたように、何らかの工夫で、あるいはそれこそ公民館を活用するという方法で、その要望に応じていただきたいと思います。

それでは、最後の質問に入ります。教育委員会の組織、機能についてお尋ねします。

これも、以前から申し上げておりますが、教育委員会の指導主事の数は他市町と比べて少なく、また、現場と教育委員会を直結する役職もありません。現場の声では、主事の数が少ないため担当する部署が多く、横の連携も少ないため同じ内容の報告事項や数字を何回も求められることがあるそうです。また、県教委からの指示が町教委において、検討されることなく、すぐに現場においてきて、慌ただしく対応を迫られることもあるそうです。

教育委員会は指示、監督をするだけではなく、やはり防波堤にならなければならないと思います。現場の忙しさを解消するためには、昨日の教育長のお話にあった研修の充実もなかなか難しいと思います。主事の数をふやし、現場と直結する役職を置くということ、このことについて、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 議員がおっしゃっているとおりで、私も来たときに体験をさせていただきました。その中でやはり、非常に多くの業務といたしますか、担当するものがあります。現在4名で、本町では指導主事がいるんですけども、本当に他市町に比べれば少ない人数の中で、同じ量のをこなしているということ。そして、おっしゃいましたように、2つに大体分かれると思うんですけども、総務系と教育指導系という形で、業務が分かれてあるものだと思います。そういったことの整理、人員体制についてとか、整理について、今後、組織の見直しということによってやっていかないといけないということは認識しています。来年度に向けて、努力しないといけないと思っております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） さまざまなことを申し上げましたが、今後、新温泉町の

教育に重点的に取り組むことは何でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） たくさんの教育がありますが、私自身は幼児教育の充実を図って、幼・小・中連携をしっかりと核にして、さまざまな教育を進めていきたい、充実を図りたいと思っています。教育をつなぐということ、連携をするということで、幼少期からの人とのかかわりや、心の育ち、また学力の向上、不登校の未然防止やいじめの未然防止、発達特性、特別支援のお子さんたちの子供の連携、より充実すると思いますし、ふるさと教育の充実などにもこういうことが連携していけばつながっていくのではないかと、そういったことが子供たちの確かな学力や豊かな心、健やかな体、バランスよく備えた子供の育成に、生きる力につながると考えています。そういったことを核にしなが、進めていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 小・中連携に関しまして、子供たちの情報交換、あるいは小学校の子供たちが中学校の授業を見る、中学校の子供たちが高校の授業を見るというような連携の仕方もあるわけですが、一つ要望として、教科だけではなくて、ぜひ小学校の子供たちに中学校の生徒会の総会の様子、中学校の子供たちにぜひ高校の生徒会活動を見ていただき、それを小・中・高連携にさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） いい、本当にありがたいなと思います。今の御意見も含めまして、やはり実際に、交流ではなくって連携、本当に深い連携につながるように、これからはしていかないといけないということで、いろいろ見直しもしていております。今まで積み上げてきていただいたことを見直す中で、例えばオープンジュニアハイスクールだとか、子供たちが実際に行って中学校の授業を体験するとか、そういったこととかいろんなことが考えられると思いますので、生徒会、この生徒会活動というのは児童会活動とともに素晴らしい子供たちの力を育てるものだと思いますので、そういったこともしっかり考えていきたいと思っています。いい案をありがとうございました。

○議長（中井 勝君） 2番、太田昭宏君。

○議員（2番 太田 昭宏君） 冒頭に申し上げましたが、町長の答弁の検討する、とてもよい意見、考え、参考にしたいという答弁は想定内でしたが、教育長のありがたい提案というのは想定外でした。

地球の歴史には続きがあって、実は生物種、絶滅危惧種の種の部分ですね、この生物種は絶滅を繰り返していたことが化石等からわかっています。その生物種の平均的な寿命は100万年から1,000万年と言われていています。そうすると、人類も恐らく寿命がありますが、数字の上ではまだまだ寿命は続くようです。しかし、地球カレンダーでお話ししたように、わずか2秒、この1年間の中の人類はわずか2秒です。この議会もカ

レンダーに当てはめれば、わずかな、本当に消えてしまうような時間です。ここで、いろいろ議論したことを検討中という時間は余りありません。すぐにいろんな面で行動を起こしていただきたいと思い、質問を終わります。

○議長（中井 勝君） これをもって、太田昭宏君の質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

暫時休憩します。25分まで。

午前11時14分休憩

午前11時25分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

○議長（中井 勝君） ただいま休憩中に協議いただきましたとおり、令和元年度新温泉町一般会計補正予算（第2号）、並びに特別会計6会計及び公営企業会計2会計の補正予算につきましては、休憩のままで説明を受けることにいたします。

暫時休憩します。

午前11時25分休憩

午後 0時15分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

以上で、休憩中における令和元年度新温泉町一般会計補正予算（第2号）、並びに特別会計6会計及び公営企業会計2会計の補正予算の説明は終わりました。

○議長（中井 勝君） お諮りいたします。本日の会議はこの辺で延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中井 勝君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

次は、9月17日火曜日午前9時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。お疲れさまでした。

午後0時15分延会
